

## 各地のたより

豊かな土をつくる  
(土壤生物観察と  
土壤浸透実験)  
ふれあいセンター



がつくれられる事を説明する  
と、児童達は納得した様子  
でした。



森林の土壤はすごい

一月一日、松野町立松野西小学校の四年生二八名を対象に、今年度六回目の森林教室を開催しました。今回のテーマは、「①土壤を観察して生き物を探し出し、その存在と役割に気づくこと。②模型を使った水の土壤浸透実験を通して、森林土壤の仕組みを学習する。」です。

土壤の観察では、虫眼鏡で発見した生物を、マイクロスコープを使ってスクリーンへ大きく映し出しました。ミニズの幼生は腸の中の土まで映し出され、土を食べていることが理解できました。このミニズが糞をすることにより、豊かな土

をつくる(土壤生物観察と土壤浸透実験)ふれあいセンター

裸山と樹木が生い茂った山の模型を作り、じょうろで水をかけました。裸山はすぐに崩れ始めましたが、樹木のある山は、ゆっくりと水が流れしていく様子がわかり、森林の土砂流出を防ぐ働きが理解できました。

今回の学習で年間予定の六回が終了しました。同校では三学期に、これまでの学習を取りまとめた「わくわく発表会」を行ったそうです。

水が流れていく様子がわかり、森林の土砂流出を防ぐ働きが理解できました。

裸山と樹木が生い茂った山の模型を作り、じょうろで水をかけました。裸山はすぐに崩れ始めましたが、樹木のある山は、ゆっくりと水が流れていく様子がわかり、森林の土砂流出を防ぐ働きが理解できました。

水の土壤浸透実験では、裸山と樹木が生い茂った山の模型を作り、じょうろで水をかけました。裸山はすぐに崩れ始めましたが、樹木のある山は、ゆっくりと水が流れていく様子がわかり、森林の土砂流出を防ぐ働きが理解できました。

がつくれられる事を説明する  
と、児童達は納得した様子  
でした。

「綺麗な音色」  
炭焼き体験  
ふれあいセンター



一二月七日、松野町立松野南小学校全校児童を対象に、身近な材料を使っての炭焼き体験と木工クラフト作りの出前授業を行いました。

た。

始めに、炭の種類や利用法などを説明した後、白炭と黒炭を使った実験をしました。ノコギリを使っての切断では、黒炭は簡単に切れましたのに、白炭は全員で切ろうしましたが、堅くて切斷することはできませんでした。

炭焼きを開始して約四〇分が経過した頃、缶を取り出し、ふたを開ける時は、少し心配そうでしたが、炭

が变成了木の棒と炭になっていました。

持参したマツボソクリやドングリ、折り鶴などを小型のブリキ缶に詰めていきました。そして、ドラム缶のたき火の中へ放り込み、焼き上げるまで木工クラフトを行いました。木工クラフトでは、予め当センターが用意していた木の枝輪切りを利用したクマのストラップとクマの置物を作りました。

のブリキ缶に詰めていきました。そして、ドラム缶のたき火の中へ放り込み、焼き上げるまで木工クラフトを行いました。木工クラフトでは、予め当センターが用意していた木の枝輪切りを利用したクマのストラップとクマの置物を作りました。

持参したマツボソクリやドングリ、折り鶴などを小型のブリキ缶に詰めていきました。そして、ドラム缶のたき火の中へ放り込み、焼き上げるまで木工クラフトを行いました。木工クラフトでは、予め当センターが用意していた木の枝輪切りを利用したクマのストラップとクマの置物を作りました。

初冬の八面山へ  
ふれあいセンター



白炭は硬い

一二月七日、松野町立松野南小学校全校児童を対象に、身近な材料を使っての炭焼き体験と木工クラフト作りの出前授業を行いました。

始めに、炭の種類や利用法などを説明した後、白炭と黒炭を使った実験をしました。ノコギリを使っての切断では、黒炭は簡単に切れましたのに、白炭は全員で切ろうしましたが、堅くて切斷することはできませんでした。

炭焼きを開始して約四〇分が経過した頃、缶を取り出し、ふたを開ける時は、少し心配そうでしたが、炭が变成了木の棒と炭になっていました。

児童からは、「白炭と黒炭の性質の違いがよくわかった」「ストラップや置物が思ったより上手くできてよかったです」等の感想があり、身近にある材料を使った炭づくりや木の枝のクラフト作りを通して、森林や木材へ

学生を対象に休日などに野外観察会などを行つており、今年で五〇周年となることから、その記念行事として八面山への登山と黒尊山での植樹を行いました。

一月二七日、少し肌寒いものの、晴天の登山道を職員から周辺の樹木の説明を聞きながら約一時間かけて八面山山頂に登り、そこから続くブナ林に到着しました。

葉を落としたブナ林は太陽の光が差し、とても明るく、その中で、ロープで作ったブランコや、林床に積もったブナの葉の中に埋もれてみたりして元気に遊びました。

黒尊山の当センターが自然再生事業を行つてている林地では、職員からニホンジカによる食害の説明を受けた後、イロハモミジの苗木二〇本を植え、シカの食害から守るために植生保護管

も取り付けました。  
日常では経験することの少ないブナ林での散策や、山の斜面での作業は、児童林への興味を深めたのではないでしょうか。



ニホンジカに食べられないように

雨と霧は一時的なものと判断し、天候の回復を待つたため、急遽、バスの中で「森・川・海」の森林教室となり、予定から一時間遅れての登山となりました。

幸い、雨はやみ、霧は晴れたものの、風はなお強く寒さを一層厳しいものにし、児童には少々つらい登山となりましたが、職員の樹木解説を聞き、ガマズミの赤い実を頬張つたりしながら元気になりました。

一方、具同小学校の五年生が訪れた一二月三日は、前日からの雨が上がり、平地は快晴で、意気揚々と黒尊川沿いの県道をバスで登山口に向かいましたが、標高千メートル付近は濃い霧と強風に加え、小雨と初冬の寒さであまり登山向きとなりましたが、児童の記憶にはより強く残ったものと思います。

「源平屋島の森」でボランティア作業  
（香川森林管理事務所）



同時に下草刈りを行つて、森全体がすつきりました。

作業が終わった後、地元の方々からは、「何かあつたらいつでも声かけてくれな」という頼もしい言葉をいただきました。また、小学生は、「カマキリがおつたよ！」とカマキリを見せてくれました。

地元自治会、屋島東小学校、ボランティア団体等の協力を得て、毎年三回行われているもので、今回は二回目の実施になります。

今回のボランティア作業は、毎回行つて下草刈りの外に、ウメの移植も行いました。これは、「ウメの生長に伴い、密度が高くなつた箇所を何とかできないか」という地元の方の意見をもとに行つたもので、あらかじめ根切りしておいた

約一時間で山頂に着きましたが、時間の都合でブナ林の散策はできず、残念ながらそのまま下山することになりました。

下山する頃になると、天候も回復し、眼下に宇和海を望むことができました。

森林の恵みばかりでなく、自然の厳しさも体験することになりましたが、児童の記憶にはより強く残ったもう一株を移植しました。また、



ウメの移植

児童たちは、先輩たちが植え、育てた林の中で、枝打ちや間伐を見学し、普段あまり見かけない作業に

はじめに、地元ボランティアの方々や香川森林管理事務所職員から、学校林の歴史や間伐の大切さ、林業に必要な道具の説明を受けて学校林に足を踏み入れました。

一二月一日、觀音寺市立大野原小学校の学校林（分取造林・萩ノ尾国有林）において、森林環境学習が行われ、六年生九四名が参加しました。

この学校林は、一九五三年に廃校となつた旧五郷小学校の児童によつてヒノキとスギが植えられたものです。



学校林の歴史の説明

見入っていました。  
森林は、二世代、三世代と受け継がれていくもので。今回の森林環境学習を通じて、先輩たちの育ててきた森林の目に見えない価値や大きさを実感でてきたのではないかと考えています。

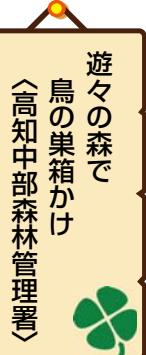
一月一六日、当署管内ヒカリ石国有林内に設定している遊々の森で、香美市立大柄小学校五年生一名が鳥の巣箱かけを行いました。

この巣箱は今年七月に地域の国有林について理解を深めるために行つた森林教室で作製したものです。

当日は秋晴れで、現地に着くまでのバスから美しい紅葉を楽しめました。巣箱の取り付けにかかると、生徒達は、急な斜面に足を取られながらも「鳥が入りますように」と願いを込め、サクラの木にしつかりと固定していました。  
巣箱をかけた後は、自然の中にあるものを見つけ



見入っていました。



るフィールドビンゴゲームを行いました。生徒達は制限時間いっぱい走り回り、項目にあがつているキノコやカズラ、コケなどを我先にと探し出し、いくつものビンゴを完成させていました。



巣箱かけをした児童



四万十森林管理署  
楠山森林事務所  
首席森林官 北村 啓明  
楠山森林事務所は、四国  
の西南端に位置し、温暖な  
気候と、山、川、海の豊かな  
自然に囲まれ、沖の島、  
柏島周辺は磯釣りに適した  
場所も多い。また、釣り人  
だけのあこがれの釣り場だ  
けでなく、海は透明度も高  
く、珊瑚や熱帯魚が豊富に  
見られ、全国有数のダイビ  
ングスポットとなっていま  
す。交通の面では、九州へ  
のフェリー航路や土佐くろ  
しお鉄道終点の宿毛駅があ  
ります。



アケボノツツジ

当事務所の管理面積は、  
国有林三、五八六㌶、官行  
造林三四五㌶で、計三、九  
三一㌶です。

この箇山は、日本三百名  
山の一つで山頂には、二等  
三角点が設置されています。  
かつては社領地であつ  
たとされ、箇山神社は飛鳥  
時代に用明天皇の勅願所  
がおかれていたと言われ、  
年間を通して登山者が訪  
れます。ゴールデンウイー  
クが間近になると、宿毛市、  
宿毛市教育委員会主催の  
箇山の清掃があり、毎年一  
〇〇名を超すボランティ  
アが参加しています。また、  
二年ほど前より大月町内  
の小学生を招いて、森林教  
室を実施しています。



管内の国有林の特徴とし  
ては、一つには、ミヤコザ  
サとアケボノツツジの群落、  
白骨林が点在し、四国西南  
部の原生林的景観残してい  
る箇山風景林があります。

天然林、中森奥藤自然観  
察教育林です。この、自  
然観察教育林は、地元の  
宿毛市立橋上中学校の森  
林環境教育の場としても  
利用され、また、隣接し  
て、松田川風景林もあり、  
この風景林には箇平キャ  
ンプ場があり、毎年七月  
にキャンプ場開きが実施  
され、多くの方々に利用  
されています。

当森林事務所の主な事  
業としては、造林事業（二  
ホンジカ防護ネット修理、  
下刈りから保育間伐）、林  
道維持管理、立木販売、  
境界巡査、林野巡視等が  
あります。

また、首席森林官とし  
て、署の窓口的業務、若  
手職員の人材育成と大き  
な使命があり、定年まで  
残り少ない国有林の職務  
をまつとうしていきたい  
と思います。

二つ目には、ヒノキ、  
モミ、ヒメシャラ、カエ

の参加としては、七月に  
宿毛警察署管内沿岸協力



箇山での森林教室

会、六月から七月中旬に  
嵐湖まつり実行委員会  
(中筋川総合開発工事事  
務所主催)、一一月から二  
月に宿毛市木材需要拡大  
推進協議会(会長四万十  
森林管理署長)、三月下旬  
に宿毛市桜の里推進協議  
会など各種会議等に参加  
しています。

関係機関との会議等へ  
の参加としては、七月に  
宿毛警察署管内沿岸協力